

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	むぎのめ子ども発達支援センターりんく		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 30日		～ 令和7年 2月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 30日		～ 令和7年 2月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムの立案をチームで行っており、活動の前後には打ち合わせや振り返りをその都度行っている。	チームで検討を行うことで、複数の視点から、子ども一人ひとりの気持ちや行動を予測した上で活動を計画し、終了後は、子どもの実際の様子を確認し、次の活動へ向けての計画を行うようにしている。また、子どもの気持ちの把握と大人の関わり方については、特に丁寧に検討を行っている。	今後もチームでの検討を継続し、職員間で意見を出し合いながら様々な視点から子どもを捉え、よりよい支援につなげていけるように、子ども理解を深めていけるような事業所内研修やケース検討を重ねていく。
2	子どもが通所を楽しみにしていること。 生活記録表を活用し、その日の子どもの様子を保護者に伝えるとともに、日常的な小さな困り事へも対応していること。	「子どもらしい生活」を大切に、緩やかな日課のもと、季節のあそびや感覚統合の視点に基づいた、ダイナミックなあそび、素材あそび、わらべうた等をふんだんに取り入れている。その日の様子を、具体的な場面を通して保護者に伝えるようにしている。	子どもの権利や発達、子どもの生活とあそびを学ぶ学習会の実施や研修、他事業所との学習交流、実践見学への参加の機会を増やす。
3	子どもたちが「やってみたい」気持ちを膨らませたいけるように、子どもの実態(発達段階や興味・関心)を理解し、それらに即した手作りの教材(手作り絵本・うた・遊具等)を、日々の療育の中で作成し、使用していること。	大人(保育者)からの提案で活動するというイメージではなく、子ども自身が「やってみたい」と能動的に活動に向かうことを大事にしている。子どもの期待が高まるような活動の導入の仕方、教材は何かを検討する中で、子どもにあった教材を必要に応じて随時準備している。その際、細やかな配慮や工夫が必要なため、手作りで作成することが必然となっている。	療育は“丁寧な保育”ということ、あそびづくりの視点から、保育実践を学ぶ学習会や、あそびづくり研修への参加、他事業所との学習交流、実践見学などの機会を増やす。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員ひとりひとりが、子どもの集団づくりの視点(子ども自身が集団を感じていけるようなつなぎの支援、活動)とあわせて、職員同士が呼応しながら子ども同士をつなぐ支援(子どものモデルとなる)を豊かに充実させていくことが必要である。	子どもの発達段階に応じて、0歳児からの集団づくりを意識して日々の活動に取り組んでいるが、職員間の共通認識やリーダーやサブなど役割において、それぞれが意識する視点の違いなど、もっと総合的に学びを深めることで、その年々の子どもたちに見合ったよりよい集団づくりができるのではないかと。	場面記録など実際の場面に基にした検討会や集団づくり実践、子どもの発達を学びあう研修等を学ぶ機会を増やす。
2	各計画やマニュアルの保護者への周知の仕方に工夫が必要である。	これまで、入園時や年度初めの重要事項説明時に説明をしていた。周知できるように、掲示やファイルを園内に置くようにしていたが、保護者にとっては見る機会があまりなかったのではないかと。	計画やマニュアルの目的や内容について、わかりやすい資料の作成や説明を行えるようにしていく。
3	保護者対象の学習会や交流会など、保護者同士の交流を図る機会やきょうだい向けの活動を充実させていくことが必要である。	保護者対象の学習会や保護者同士の交流については、保護者からの意向をくみ取りきれていない部分があったのではないかと。きょうだいの相談に応じたり、園行事にきょうだいも含め家族も参加できる行事はあるが、きょうだい向けの活動は取り組んでいない。	子どもたちの日常の様子を伝えることを含めた学習会の企画や、保護者同士(先輩保護者も含めて)の交流会、園行事の企画の工夫、保護者の要望の集約の仕方の工夫に努めたい。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 むぎのめ子ども発達支援センターりんく

公表日 2025年 2月 28日

利用児童数 29家庭 32名

回収数 22

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	22	0	0	0		基準以上の空間を確保しています。今後も子どもたちが安心して思う存分活動できる空間を保障していきたいと思います。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	13	4	3	2		人員体制の基準以上の職員配置をしています。子どもの集団づくりの視点とあわせて職員同士が呼応しながら子ども同士をつなぐ支援を今後も豊かに充実させていきたいと思っています。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19	3	0	0		子どもの生活の動線に対し、子どもの主体性が促されるような環境設定を大事にしています。階段や手洗いの高さなど、低年齢のお子さんにも対応できるように配慮しています。お気づきの点がありましたらお知らせください。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	21	1	0	0		日常的・定期的に清掃・消毒を行っています。今後も衛生管理に努めていきたいと思っています。お気づきの点がありましたらお知らせください。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21	1	0	0		日々の活動の中での子どもの様子から、子どもの発達要求や願いへの理解を深めることはもちろん、定期的に様々な研修を実施し、職員の専門性の向上を図っています。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	20	1	0	1		支援プログラムに基づいた個別支援計画を作成し、支援内容を明記し、支援を行っています。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	20	1	0	0		面談や保護者からの聞き取り等で得られた願い（ニーズ）や課題、子どもの実態を把握した上で、子どもの発達段階や発達要求等、客観的に分析した上で支援計画を作成しています。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19	1	0	1		これまでも子どもの発達段階や発達要求に対し、総合的な視点を持ち支援をしています。児童発達支援ガイドラインに沿って、5領域（「健康・発達」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」）を網羅し、計画を作成しています。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	21	0	0	1		今後も児童発達支援責任者を中心に、計画に沿った支援がなされているか、確認や検討もしながら取り組みます。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18	1	0	3		季節や年齢に即した活動を軸に、繰り返しあそびを楽しむことも大事にしています。今後もプログラムの検討をしながら実践を展開していきます。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	14	3	1	4		同一敷地内に認可保育園があり、園庭遊びを一緒にしたり、合同での行事（人形劇観劇・うたあそび会）や避難訓練を行っています。子どもたちも日常的に行き来し、交流が生まれています。
保 護	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	22	0	0	0		入園時に説明をしています。また園内に掲示をしています。今後もわかりやすい説明を心がけ、気軽に質問もできるように努めます。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	21	0	0	1		「個別支援計画」として、保護者の方々に説明、交付をしています。今後もわかりやすい説明を心がけていきたいと思っています。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会が行われていますか。	22	0	0	0		個別面談や生活記録表でのやりとりなど、日常生活の中での気づきや子どもへの関わりや発達を保護者と共有することを大事にしています。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	21	1	0	0		今後も細やかな変化に気づけるように、家庭生活の様子も把握し、また療育での様子も具体的にわかりやすく伝えることを心がけ共通認識できるように努めていきます。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20	1	0	1		定期的に面談を行っています。また、毎日の生活記録表での育児への不安に対し、助言や支援をしています。定期的な面談以外にもご要望があれば随時対応いたします。今後も丁寧に取り組んでいきたいと思っています。

者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22	0	0	0	「子どもを肯定的に受けとめる」方針のもと、子どもたちの様子や支援については、日々のミーティング等の中で共有し、方針を検討しています。引き続き職員の共通理解に努めます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	15	1	4	2	子どもたちの日常の様子を伝えることを含めた学習会の企画や、先輩保護者も含め保護者同士の交流会、園行事の工夫に努めます。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	21	0	0	1	登降園時や電話、来所、連絡帳など、タイムリーに相談につながるように努めています。お気づきの点がありましたら、遠慮なくお知らせください。今後も迅速かつ丁寧に対応できるように努めます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	21	0	0	1	子どもたちの言葉や行動の背景にある気持ちを丁寧にもくみ取っていきたくと思います。今後もよりよい関係づくり、情報伝達のための配慮に努めていきます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	15	2	1	4	毎月のおたよりは翌月から翌月の行事予定も記載し、発行しています。自己評価の結果も公表しています。今後も必要な情報を早めに開示していくように努めます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20	0	0	2	個人情報の取扱いについて、これまで十分に注意しておりますが、改めて職員間で確認し取扱いについてはさらに注意していきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12	4	0	6	各マニュアルを作成し、各部屋へ掲示しています。保護者への周知の仕方については、もっとわかりやすくできるように努めます。年に一度、防犯訓練や感染症対応訓練を実施しています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14	1	0	8	法令にしたがって訓練を実施しています。これまで避難訓練の他に豪雨引き渡し訓練を実施しましたが、今年度は防災給食訓練も実施しました。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	19	0	0	3	安全計画を作成し、園内に掲示しています。計画に基づいて安全への配慮や訓練等を行っています。保護者への周知の仕方については、もっとわかりやすくできるように努めます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19	0	0	3	事故や怪我が起こらないように日々努めています。もし起こった場合には迅速に対応できるようマニュアルを作成しています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	20	2	0	0	これからも職員間での学び合いを深めながら、子どもたちが安心して自分を出し、笑顔が増えていけるような支援を続けて参ります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	22	0	0	0	保育園は嫌がりますが、りんくは楽しみに通園しています。これからも、楽しいあそびや生活、大人やお友達との安心の関係を土台に子どもたちが発達の主人公となり、日々の生活を自分らしく送ることができるように、実践研究を重ねていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	21	1	0	0	今後も、りんくの取組みについて、丁寧に伝えていくとともに、専門性を高めながら「子ども支援」「家族支援」「地域支援」を目指していきます。ご意見やご要望がありましたら、遠慮なくお話しただけのとうれしいです。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	むぎのめ子ども発達支援センターりんく	公表日	令和7年 2月 28日
------	--------------------	-----	-------------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		クラスの部屋の広さは、各クラスの人数に対して法令基準以上に確保しています。プレイルーム(2階)・園庭も同様です。またプレイデッキ(2階)もあり、活動内容にあわせて使用しています。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		職員数においては、法令による配置基準に従った職員数よりも多く配置しています。	これからも、子どもたちの発達段階に応じた集団づくりについて、集団づくり実践の学習や職員同士の役割・連携など、総合的に学び合う機会をより増やしていきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		各クラスにおいて、子どもの生活動線に即し、子どもの主体性が促されるような環境設定を大事にしています。一人ひとりに異なるマークを準備し、自分の持ち物や場所がわかりやすいように工夫しています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		子どもたちの状況や活動にあわせて、空間を確保しています。活動終了後には、各部屋と椅子・机、遊具の消毒を行っています。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		個別にお部屋や場所が必要になった際の空間は保障できるようにしています(相談室・医務室、他)。その際は、必ず職員が寄り添い対応できるようにしています。	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		会議やミーティング等にて、全職員と課題が共有できるよう配慮しながら、業務の継続的な改善に努めています。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		保護者向けの評価表のご意見だけでなく、日々のやりとりや相談などでのご意見も踏まえ、業務改善むけて取り組んでいます。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		職員の意見等を把握できるように、会議だけでなく定期的に面談やアンケートを実施し、業務改善へつなげるようにしています。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	法人内では定期的に行っていますが、第三者による外部評価は、実施に向けて検討していきます。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		事業所内研修や法人研修、外部研修へ参加できるように計画を立てて取り組んでいます。	
適切	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		支援プログラムを作成し、法人ホームページに掲載します(2月末予定)。また保護者の方へも別途お知らせいたします。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		保護者や相談支援員からの聞き取りや発達評価、子どもの様子などを基にアセスメントを行い、分析・検討の上、支援計画を作成しています。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		子ども一人ひとりの日々の様子からうかがえる、発達要求を子どもの支援に関わる職員間で検討し、作成しています。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		支援計画に沿って、共通理解のもと支援を行っています。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		KIDS、新版K式発達検査等、標準化されたアセスメントツールを使用しています。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		子どもの様子や発達段階、発達要求や保護者ねがい(ニーズ)をもとに、個別支援計画作成会議を実施し、職員間で意見を出し合いながら、支援内容を設定しています。	

な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		年間、月、週、当日、行事など、担当職員を中心にチームで療育内容や支援のあり方について検討し、振り返りを行っています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		年間計画や毎月の活動計画において、療育内容を検討しており、季節や生活文化、子どもの実態に応じた療育内容の工夫を行っています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		基本的には集団活動をベースとした支援を行っていますが、集団療育の中に個々の課題に応じた支援（個別活動）を取り入れており、支援計画を作成しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		左記のとおり実施しています。指導案を基に、支援開始前までに実践に入る職員間で事前にミーティングを行っています。参加できない職員に対しては、申し送りを行っています。大きな方向性については、前日までに共通理解をしています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		左記の通り実施しています。降園後に、各グループごとにミーティングを行い、その日の活動の振り返りや子どもの様子の把握など共通理解に努めています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		左記の通り実施しています。子どもの実態、変化、具体的な支援、今後の課題につながる内容を記録するよう心がけています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		先の通り実施しています。子どもの実態の変化や保護者の聞き取り等により、見直しの必要性を児発管を含む職員間で検討し、判断しています。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本的には児童発達支援管理責任者が参加しますが、ケースによっては担当職員も同席し、情報共有を図っています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて各関係機関と連携を図り、支援を行っています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		左記の通り実施しています。必要に応じて併行通園先と、それぞれの園の子どもの様子を情報共有し、支援の方向性を確認しています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		各学校との連携会議へ参加し、情報提供や支援の方向性についての相互理解を図っています。また、事前の体験活動や卒園後も必要に応じて訪問、連携会議を実施しています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		左記の通り実施しています。地域の児童発達支援事業所の皆さんの要望を聞きながら内容を計画しています。今年度は公開療育と研修会を実施しました。	今後も地域の中でのよりよい連携を目指して、事業所の皆さんの要望を聞きながら、学び合いや情報交換の機会を増やしていきたいと思っています。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。	○		左記の通り実施しています。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		鹿児島市の自立支援協議会こども部会、市のセンター会議、保健センター主催の地域連携会議など、積極的に参加しています。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		同一敷地内に認可保育園があり、園庭あそびを一緒にしたり、合同での行事（人形劇観劇・うたあそび会）や避難訓練を実施しています。	交流の様子をお便り等で、お知らせしていきたいと思っています。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々の連絡帳や活動後の引継ぎの際に、活動の様子や支援の内容について伝えるようにしています。保護者との連携のもと、生活記録表を通して家庭の様子や子どもの変化をタイムリーに把握し支援につなげるようにしています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		日常的な相談のやりとりや親子活動、相談児に具体的な関わり方を通して、保護者との共通理解を図っています。外部の学習会のお知らせや法人家族会の交流会など、情報提供に努めています。	これまでの取り組んでいる学習交流会を今後も、保護者の要望を把握しながら、企画や開催の回数など検討・実施していきます。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		体験や入園時に、療育で大切にしていることや活動内容、利用料などについてわかりやすく説明できるように努めています。また、不明な点があった際には、その都度、確認・返答するようにしています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点も踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		左記の通り実施しています。子どもの様子や保護者との日常のやりとり、モニタリングや面談で聞き取ったことを踏まえて、共有しやすいように文章化し、齟齬がないか確認をとるようにしています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		左記の通り実施しています。できるだけわかりやすく説明できるように配慮しています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的な面談以外にも、電話や来所による相談など随時対応できるようにし、タイムリーに解決ができるように努めています。また、月1～2回、保健師による個別相談の時間を設けています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		親の会活動を支援し、保護者同士の交流の機会や学習会を設けています。きょうだいを含め、家族で参加できる機会を設けています。	子どもたちの日常の様子を伝えることを含めた学習会の企画や、保護者同士(先輩保護者も含めて)の交流会、園行事の企画の工夫、保護者の要望の集約の工夫に努めます。
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談や申し入れは迅速に対応できるように体制をつくっています。苦情相談窓口や体制については、契約時に説明を行っています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月園だよりを発行しています。わかりやすい内容づくりに努め、月ごとの活動内容や行事予定など、その都度お知らせしています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取扱いについては、保護者については、入園時に説明を行い、同意を得ています。職員において取扱いに十分留意するよう努めています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		それぞれのお子さんの実態から必要な支援(具体物や手づくり絵本・うた等も含めて)を行い、専門職のアドバイスも受けながら手立てを工夫しています。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		法人で行う行事(フェスタ等)には、地域住民の方に参加いただいています。また、園内の行事の際には近隣住民の方にチラシで案内をしています。ボランティア・見学・実習生の受け入れも積極的に行っています。		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		左記の通り、各マニュアルを作成し、各部屋へ掲示し職員間での共有、発生を想定した訓練を実施しています。	わかりやすい内容・記載に努め、周知の仕方も工夫できるように努めます。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		左記の通り実施しています。今年は防災給食訓練もあわせて実施しました。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		入園時に確認しています。状況が変化した場合でも、その都度保護者の方と情報を共有し、必要に応じて園医へつなぐ等の対応しています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現在対象の方はおりませんが、医師の指示書や食物アレルギー対応のマニュアルを作成し、それに基づいて支援をしていきます。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		左記の通り実施しています。安全計画の内容については、園内(玄関)にて掲示しています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画に基づく取り組み内容については、重要事項説明書にて説明、周知を行っています。	わかりやすい内容・記載に努め、周知の仕方も工夫できるように努めます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		左記の通り実施しています。ヒヤリハット内容を職員間で共有し、対応策を検討し対応しています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設置し、虐待防止チェックリストを実施するとともに、虐待防止研修や人権学習を実施しています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		本事業所としては、身体拘束を行うことは現状としてはありませんが、身体拘束の適正化については、委員会を設置し、指針に基づいて決定することになっています。法人内研修や事業所内研修を通して職員間で学び合いを深めています。	今後も身体拘束のない支援の可能性を検討した上で、やむを得ない場合のみ保護者の了解を得た上で、子どもの安全を目的とした必要最低限の拘束を実施し、拘束の目的や内容、期限については個別支援計画に記載します。	